

(別記様式)

令和 8 年度 府立 朱雀 高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ **計画段階** ・ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
朱雀高校の教育目標・校訓をもとに次のように定める。 1 生徒の期待に応える「生徒本位」の学校づくりに教職員全員体制で取り組む。 2 生徒に学ぶ主体としての自覚を持たせ、学習に励み、進路を切り拓き、社会で生き抜く力を育てる。 3 規範意識を育てて、自らを律し、自主活動を通して他者と協働する力を育む。 4 心身ともに健康な生徒の育成と安心・安全な学校づくりを行う。 5 開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域との連携を進め、理解と信頼を得る。 6 本校全日制に学ぶ生徒が、自らに自信を持ち、明るい将来を展望し、活気のある学校生活を安心して送るための「朱雀プライド計画」を積極的に推進していく。	成果 （１）「生徒たちが自らに自信と誇りを持って明るい将来を展望し、活気のある学校生活を安心して送る」ことを目指した「朱雀プライド計画」（制服導入・コース制導入・部活動活性化）第２ステージ「朱雀 Grow Up Project」を推進。「安心して生活できる学校」への変革に一定の成果をあげることができた。 （２）基礎基本の徹底により学習意欲の向上が見られ、２年生 10 月時の進路希望調査において進学希望者が大きく増加した。 （３）様々な発達課題や障がいのある生徒への対応を含め、生徒一人一人に丁寧に向き合い、適切な支援・指導を行うことで卒業・進級へと導くことができた。 （４）学校行事等の実施に学校外部の人材を活用した探究・協働学習の場を確保することで生徒相互の交流促進、社会性や自主性の育成を図ることができた。 （５）部活動加入率は約 70%。前年度に引き続きボート部が全国大会に出場する等、学校の活気向上につながった。 課題 （１）各学年、各コースにおいて基礎学力の定着を図る取組を引き続き充実させる。 （２）生徒の希望進路実現に向けた様々な取組をより充実させる。 （３）地域から「高い信頼・期待を持たれる学校」へと更に進化を続ける。	1 活気ある学校づくり （１）生徒一人一人にしっかりと向き合い、生徒の良さ・可能性を引き出す指導を進める。 （２）開学 120 年を超える伝統校であることを再認識する機会を設け、生徒・教職員の帰属意識や誇りを高める雰囲気醸成する。 （３）教職員間の意思疎通や連絡体制を円滑にし、学校施設や環境の充実整備に努め、活気ある学校づくりを目指す。 2 主体的な学びと進路実現 （１）ICT 機器の活用を推進し、生徒一人一人の能力や適性を踏まえた学習の充実を図るとともに、夢や希望の実現に向けた進路指導を充実させる。 （２）探究学習等の拡充により、生徒の主体的な学びを伸張する学習指導を工夫する。 3 自律と自立 （１）ルールやマナーの意義を考える取組を進め、規範意識を醸成するとともに、望ましい行動を育てるポジティブ行動支援を推進する。 （２）学習活動や特別活動を通じて、自己調整力や粘り強く物事に取り組む態度を養成する。 （３）部活動の活性化を推進し、学校に軸足を置いた学校生活を送ることによる充足感を向上させる。 4 健康と安全 （１）健康安全教育を充実させ、自他のいのちを守る安全意識を育成する。 （２）生徒一人一人の個性を尊重し、人を思いやる心を育み、人権意識を育成する。 5 地域に開かれた学校づくり （１）地域と連携した取組をより積極的に推進する。 （２）「朱雀プライド計画」の進行により変化してきた朱雀高校の良さを伝える広報活動をより一層充実させる。

評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評価			成 果 と 課 題
組織・運営	学校経営計画に基づいた教育活動の実践につながる運営体制の構築	・校内諸会議や研修会を通じて共通理解を図り、具体的な方策により重点目標の達成に努める。				
		・効果的校務運営のために分掌機能の整理・充実を図るとともに分掌間の連携を図る。				
	学校活性化と魅力の発信	・外部機関や地域と積極的に連携・調整を図り、生徒の視野を広げる取組を実施する。				
		・校内の教育諸課題を整理し、学習指導要領等に基づいて適切に改善を進める。				
教 務 部	学習への意欲を高め、生徒の学力充実・学力保障に努め、全ての生徒の進級・卒業を目指す。	・出欠や学習の状況に関するデータや情報を適宜整理し、全体で共有することで、学校生活上や学習上の課題のある生徒に対して教員集団として取り組み、原級留置や進路変更の防止に結びつける。				
		・ICT機器を活用した個別最適化の指導の実現により、全ての生徒に対して、学力伸張を図る。				
	指導と評価の一体化を図る。	・生徒の学力向上のために適切な指導計画を立てるとともに、評価基準や教育課程の見直しも含め、指導体制の再構築を図る。				
	校務システムの適切で効果的な運用を図る。	・次年度に、新システムが導入されることを踏まえ、現状と今後に向けての改善点の整理を進める。				
生徒指導部	自立と自治能力を持つ生徒集団の育成を図る。	・生徒会をサポートし、生徒の自主自治の力を育成するとともに、委員会活動の活性化を図る。				
		・行事の企画や運営、参加を通じて母校への所属意識を高め、愛校心の醸成に努める。				
		・部活動の加入率向上とともに、各部活動の活動活性化を目指す。				
	生徒の規範意識の醸成を図る。落ち着いた学習環境のもと、安全・安心の場をつくる。	・基本的生活習慣の定着および社会人基礎力につながるマナーの向上について、全校体制による規範意識の醸成をはかる。				
・あらためて全教職員が授業規律を高め、維持することについての指導意識を共有し、共通行動がとれることを目指す。						

	自他の生命を大切にする態度を育成し、実践させる。	・ 交通ルールの遵守および交通安全についての啓発を推進する。 ・ スマホ及び学習タブレット等の使用およびSNS等に関するネットルールやマナーを考える機会を設け、遵守する態度を育成する。				
進路指導部	進路を切り拓く力を伸ばし、適切な進路選択ができるよう指導する。	・ 学習強化週間の設定やSHRを利用した学習機会の創出に努め、学力の向上につなげる。 ・ 高大連携事業等によって進路意識を刺激し、進路希望の早期明確化につなげる。 ・ 保護者向けの情報提供に努め、進路選択をサポートする。				
		・ 模擬試験の受験を通じて自己の到達度を認識させ、目標達成への過程を充実させる。 ・ 適性の再発見や可能性の追求を通じて、自己と社会との関わりについて認識を深めさせる。				
		・ 挨拶や服装、言葉遣いの指導を通じて、社会生活に必要な基本を身につけさせる。 ・ 社会に出るにあたり、働く者としての権利と社会への貢献とを意識できるよう指導する。				
	自己と社会についての認識を深め、豊かな人生が送れるよう指導する。					
	よりよい社会の構築を目指し、自他の人権を尊重するよう指導する。					
保 健 部	健康な心と身体の育成	・ 健康診断の結果をふまえて、治療勧告や再検査が必要な生徒に対する指導の強化を図る。また未受診者〇を目指し、指導、声掛けを徹底する。 ・ 自身の身体や健康状態に関心を持ち、生活習慣の改善や疾病予防ができるよう、ほけんだよりによる情報発信をはじめ、健康教育を充実させ、生徒の健康管理能力を高める。 ・ 感染症予防の啓発および対策に努める。 ・ 生徒の実態を的確に捉え、社会情勢を踏まえた健康学習を実施し、性や健康に関する正しい知識を身につけ、自らのライフデザインを考える機会を設ける。				

	校内美化活動の推進と環境についての意識の向上	・日常的な清掃はもちろん大掃除の機会を通じて校内美化を推進する。 ・厚生委員会と積極的に連携し、生徒の校内美化意識を高め、トイレの使用マナーの向上やゴミの分別の徹底を図る。				
	生徒の心の健康への理解と対応	・心身に課題がある生徒について、個々に応じた支援ができるよう学年部と連携を深め、早期の状況把握と情報共有に努める。また、教育相談会議を中心に、生徒の課題を明確にし、支援の方策について検討し、スクールカウンセラーやまなび・生活アドバイザー等とも連携して対応する。				
企画推進部	総合的な探究の時間の充実	・朱雀で世界を広げて自分の「好き」を見つけることを目指し、実社会や実生活から問いを立てる探究を通して、問題発見力や情報活用能力を育成する。 ・外部人材や地域資源を活用し、多様な視点に触れることで、生徒の視野を広げる探究活動を充実させる。 ・ゼミ形式での探究活動を行い、教員の専門性を活かしながら、生徒の関心に応じた分野について深い探究を行う。				
	計画的な広報活動の充実	・学校内外で行われている様々な取組や成果について、本校の魅力が的確に伝わるよう、計画的かつ効果的な広報活動を推進する。 ・学校説明会や中学校訪問等を適切な時期に実施し、本校の教育内容や特色を分かりやすく発信することで、広報活動の充実を図る。 ・本校の教育方針や学びの特色を丁寧に伝え、明確な目的意識をもって入学する生徒の増加につなげる。				
	図書館教育活動の充実	・適切な選書、広報活動の充実等に取り組み、生徒の興味関心を引き出す図書館活動を目指す。 ・新学習指導要領に則り、授業での図書館活用推進および教育活動支援を行う。				

		・図書委員会活動の活性化を図る。				
学年部	基本的な生活習慣を確立し、規範意識を醸成する	・望ましい生活習慣、学習習慣の定着を図る指導を行う。				
		・タブレット、携帯電話、スマートフォンなどの使用マナーについて考える機会を設ける。				
		・多様性を認め合い、自他にとって安心、安全な学習環境を共に作ろうとする意識を高める。				
	自主活動を通して多面的な成長を図る。	・研修旅行や学校行事等の活動を通じ、協調性や規範意識を高め社会に通じる力の育成を図る。				
		・自主活動を行う中で、自分の適性を把握し、希望の進路の確立とその実現を図る力を養う。				
	よりよい社会の構築を目指し、自他の人権を尊重するよう指導する。	・挨拶や服装、言葉遣いの指導を通じて、社会生活に必要な基本を身につけるよう指導する。				
		・社会に出るにあたり、働く者としての権利と社会への貢献とを意識できるよう指導する。				
事務部	学校施設や環境の充実に努め、活気ある学校づくりを目指す。	・学習内容や方法の変化に対応できる施設設備の充実に努める。				
		・計画的に老朽施設設備の改修に取り組む。				
	生徒の就学を支援するため、適切に対応する。	・各種支援制度の周知を図るとともに、適切に活用できるよう努める。				

学校関係者 評価委員会 による評価	
次年度に 向けた改善の 方向性	